

カガヤキ

No.55(2021.4.15 刊行)、広報委員会編集

県立図書館発行

禁複製転載©広報委員会

「ボランティア論」再考
自己修行の世界

広報グループ

桜井 淳

まえがき

ボランティアを始めるきっかけは、人の数ほど存在するものの、それらを整理すると、いくつかに分類できる。

すべての年代に共通するのは、「友人からの勧め」であり、年代ごとでは、十歳台では、「推薦書に記載されるため高校進学に有利になる」、二十歳台では、「大学選択科目の関連する単位が認定される」、三十歳台と四十歳台の女性では、「子育てから解放された」、そして、六十歳台の男性では、「定年になり時間ができた」などとなる。

ボランティアについて、単純に、無料奉仕しているだけと考えている人もいるものの、特に、人間と人生について考え始める四十歳以降になると、そのように考える人の割合は、徐々に少なくなり、ボランティ

アの作業の中に、特別な意味を見出すようになる。特別な意味とは何か。

本稿では、東大大学院人文・社会研究科で、神学について研究し(「比較宗教学」(ユダヤ教、ヒンドゥ教、仏教、キリスト教、イスラーム)、「宗教社会学」、「聖書解釈学」(「聖書」の八割の記載内容は、「旧約聖書」であり、最後の二割は、「新約聖書」)、「中世ユダヤ思想」)、なおかつ、研究のため、仏教の中では、戒律が最もきびしい曹洞宗に出家した修行僧が、ボランティアについて、付き合い難い神学(theology、完全な神仏と不完全な人間の関係について論ずる学問)の立場から考察する。

組織論

ボランティア組織としては、

- ・組織なしのまったくの個人、
- ・組織と言うほどでもない地域の有志グループ、
- ・非政府組織(Non-Governmental Organization ; NGO)、
- ・非営利組織(Not-for-Profit Organization ; NPO)、
- ・私的組織(私的運営レベル)、
- ・公的組織(国縣市町村レベル、たとえば定点観測している水戸芸術館や茨城県近代美術館など)、

などが考えられる。

社会対応論

ボランティアとして参加する場合、大きく分け、ふたつの形態が考えられ、ひとつ

は、ランダムに発生する自然災害への対応であり、もうひとつは、自然災害以外をひとまとめにした非自然災害への対応である。

1995年1月17日に発生した阪神大震災(1995)を契機に、新潟県中越地震(2004)、新潟県中越沖地震(2007)、東日本大震災、熊本地震(2016)、北海道胆振東部地震(2018)など、自然災害対応ボランティアが増加している。

政府系組織が実施したアンケート調査に拠れば、参加動機は、約70%の人が、「人の役に立ちたい」ということであった。そして、また参加したいと答えた人は、約60%であった。課題は組織と人材の育成である。

組織別分野別ボランティア教育論

ウェブにおいて、キーワード「ボランティア」で検索すると、体験論や教育論など、数多くの情報にゆきつく。私が「良い内容」と感じた代表的な例を以下に紹介する。「良い」とは「人間として優れた思考」という意味である。公開文献からの引用であるため、氏名と所属組織名を明記する。各々、一ページのエッセーの中から、特に重要な一文を引用する(原文のままでなく、一部、省略している場合もある)。

教育分野

宮城教育大学「宮城力」

https://www.miyakyou.ac.jp/student_life/circle/data/miyakypower04.pdf

- 1)石川久美子(仙台市立大野田小学校教諭)
・「私が小学校の特別支援学級で学習支援

ボランティアを始めたのは、「**自分を変えたい**」と言う思いからです。」

2)星視文(福島大学付属特別支援学校教諭)

・「人と深くかかわり合い、チームでもに考え、学び、笑い合うと言う素晴らしさを**学びました**。」

3)飯野彩(山形県立河北病院言語聴覚士)

・「ボランティア活動を通し、ひととひとの新たなかかわり、**新しい自分との出会い**ができると思います。」

4)須藤充弘(青森県立弘前聾学校教諭)

・「学生生活のほんの一部を他者のために使ってみると、それ以上に**自分を磨くことができる**。」

5)文屋慶子(大崎市立松山小学校教諭)

・「子供たちの前では、**大変な部分は見せない**ことも、大切なことのひとつです。」

6)小野寺俊一(大崎市立古川西小学校教諭)

・「多くの人と出会い、**人と人とのつながりが広がったことは、大きな財産**となっています」

7)鈴木満枝(仙台市立岩切児童館児童厚生員)

・「いま、私が児童館と言う場所で働いているのは、自分が子供たちに向けて、**本当にやりたいことは何なのかをボランティアをする中で見つけた**からです。」

8)泉奈津子(仙台市立八木山南小学校特別支援学級教諭)

・「**自分を変えてくれる人たちにたくさん出会うことができました**」

NPO

NPO「夢職人」(100人の学生や社会人からなる教育ボランティア組織)

<https://children.publishers.fm/article/174>

1)後藤里奈(社会人、教育ボランティア)

- ・「後悔しないように生きたい。」

他者奉仕でなく自己修行

本稿は、茨城県立図書館ボランティア通信紙の原稿であるため、すべての誤解を回避するため、さらに、公正性を担保するため、詳細な神学理論などについては、一切、記載しないことにする。

ボランティアに対する従来の一般的な認識はつぎのような「一方向性奉仕モデル」で説明できる。

ボランティア → 地域・組織

一方向性

奉仕

しかし、先に記したボランティア経験者の感想に拠れば、一方向性奉仕と言うよりも、むしろ、ボランティア作業から学ぶべきことが多くあることを考慮すれば、つぎのような「双方向性奉仕モデル」の方が、現実をよりの確に反映しているように思える。

ボランティア ⇄ 地域・組織

双方向性

奉仕

さらに、推し進めて考えてみると、仏教の六波羅蜜のひとつの「布施」(菩提寺に金銭や物品を寄付する行為は自身の徳を積むための人間としての最高の修行行為)の考え方に基づけば、ボランティアの立場か

らすれば、先に記したボランティア経験者の感想から読み取れるように、つぎのような「逆一方向性奉仕モデル」の方が、現実をさらに良く的確に反映しているように思える。

ボランティア ← 地域・組織

逆一方向性

奉仕

(人間を育てる)

この私の提案したモデルからすれば、ボランティア奉仕は、心の問題として、他者のためにするのではなく、すべては、自身のため(徳を積むための修行)にすることになる。さらに、言い換えれば、ボランティア奉仕とは、他人依存型ではなく、自己決定型となる。

年代的分類では、おおよそ、三十代までが「一方向性奉仕モデル」、三十から六十代が「双方向性奉仕モデル」、六十代以上が「逆一方向性奉仕モデル」で説明できる。

あとがき

本稿では、最初、神学について、つぎのような基礎的解説を行ってから、本論に入りたかったのであるが、諸般の理由から、省略した。

- ・ 宗教分類法

民族宗教 ユダヤ教 ヒンドゥ教

世界宗教 仏教、キリスト教、イスラーム

- ・ 一神教か多神教か

一神教 ユダヤ教、キリスト教、イスラーム

多神教 仏教、ヒンドゥ教、神道

・各宗教の神

ユダヤ教(新約聖書とキリストを認めない) ヤハウェ

ヒンドゥ教 ヴィシュヌ(支派のシヴァ)

キリスト教 キリスト(主ヤハウェとキリストと精霊の三位一体の主として)

イスラーム アッラー

・神仏の歴史的存在性

・信頼すべき主体

禅宗 自身

禅宗以外の宗教 神仏

・各宗教の聖典

ユダヤ教 旧約聖書

キリスト教 旧約聖書と新約聖書

イスラーム 旧約聖書

・各宗教の聖地

ユダヤ教とキリスト教とイスラームとも
イスラエル国エルサレム

・仏教各派

天台宗 南無阿弥陀仏

真言宗 南無大師遍照金剛

(融通念仏宗) 一般には知られていない派
浄土宗 南無阿弥陀仏

浄土真宗 南無阿弥陀仏

臨済宗 南無阿弥陀仏

曹洞宗 南無釈迦牟尼仏

日蓮宗 南無妙法蓮華経

(時宗) 一般には知られていない派

・仏教聖典

般若経

般若心経

観音経

法華経

その他多数

・神道

神社神道(戦前は国家神道=皇室神道)

日本の戦後復興を成し遂げた精神は、仏教の教えの「六波羅蜜」の中の「忍辱」(patience)と「精進」であったとされている。日本のボランティア活動の中にも、ボランティア各自が、意識するか否かにかかわらずなく、仏教の本質的な教えが、生かされている。

編集後記

私は、国内外を問わず、出張や旅行などの際には、いつも、カバンの中に、『聖書』(共同訳、ポケットサイズ)を入れて置き、時間を作り、何度も、くり返し、熟読しています。

欧米のキリスト教信者の全宗教信者に対する割合は、約70%であるのに対し、日本での割合は、わずか、約1.5%にすぎず、欧米先進国どころか、世界中でも、ありえないほどの低さです。原因は江戸時代から今日までの歴史的な政策にあります。

寺での読経の年間回数の約80%は、「般若心経」であり、約20%は、「観音経」です。いずれも、小学生の倫理の教科書に載っているような内容ですが、誰も完全になしえない深さがあるゆえに、くり返し説く意味があるのです。仏教の最大の教えは、「般若心経」の中の「色即是空」であり、日本の戦後復興の精神となった「忍辱」と「精進」の根拠となる理論です。

桜井 淳